

意見陳述（原告 萩原ゆきみ）

これから二女のことをお話しします。

二女のプライバシーを守るため、具体的なお話しができないことをご了承下さい。

そして私の家族が被った被害は、決して私たち家族に限った事ではありません。

私の家族以外にも深刻過ぎて話せないまま、抱え込む人が多いことを裁判所に知って頂きたいです。

次女は中1でのある事が切っ掛けになり「福島から避難してきた事は言いたくない。」と言いました。

中学卒業までの1年3ヶ月は不登校になりました。その後も色々あり、高校は中退。更に集中力と理解力が無くなり読書も出来ず、二女は、「頭が悪くなった」と自分に絶望しました。

その後も、いろんな出来事が二女の身の上に起こり、18歳にもなったのに、将来の自立が見通せない状況です。

私は「次女がどんな気持ちで日々を彷徨っているのだろう」と思うと胸が張り裂けそうです。

本当はなぜそうなったのか具体的にお話ししたいです。

しかし、二女には「どこまで話して良いのか？」相談もできません。

この、家族の状況を押し量って下さい。

あれ程、集中力抜群で、未来が楽しみだった二女の将来を返して欲しいです。

私達原告が失ったもの、これから失うかもしれないものは、どんなに多額の賠償金が積まれても癒える事はありません。

避難したことは、間違いではなかったのに、なぜ子供たちに明るい未来が待っていないなかったのか。

安全だという情報だけをまき散らして、とりわけ自主的避難者をおとしめてきたのは、東京電力と国です。それが、子どもたちの未来を奪いました。

次に被ばくについてお話しします。

「少しの被ばくでも健康によくない」ことは、LNT 仮説が用いられていることから明らかです。

ですから、少しでも被ばくの影響を抑え、皆の知恵を活かして、免疫力を上げる為の施策を政府に作って頂きたいです。その為には国の責任が認められる事が大前提です。

このままでは東日本で健康に働ける納税者が減ってしまいます。その皺寄せは少なくとも日本中の人々に降りかかります。

被災者が極力、病気にならない事が税金を大事に使う事になり、皆の為になります。

そして「被ばく者が差別されない、子々孫々が堂々と子どもを産み育てる世の中を作る為」に、原発事故の国の責任を認めて私達を完全勝訴させて下さるよう心からお願いいたします。